

## 研究・調査報告書

分類番号	報告書番号	担当
A-139	12-090	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学
<b>題名 (原題/訳)</b>		
<p>Predictors of hazardous drinking behavior in 1,340 adult trauma patients: a computerized alcohol screening and intervention study.</p> <p>1,340名のトラウマ患者における危険な飲酒行為の予測因子：コンピュータによる飲酒抽出と介入研究</p>		
<b>執筆者</b>		
Ewing T, Barrios C, Lau C, Patel MS, Cui E, Garcia SD, et al.		
<b>掲載誌</b>		
J Am Coll Surg. 2012 Oct;215(4):489-95		
<b>キーワード</b>		
SBI、BAC、トラウマ、外傷、飲酒		
<b>要 旨</b>		
<p><b>目的：</b></p> <p>SBI (Alcohol screening and brief intervention) はアルコール消費、医療費、トラウマ患者における常習性外傷を減らすために用いられる。SBI がトラウマセンターに委任されているにも係らず、多様な関心事によって多くのセンターでは BAC (blood alcohol concentration) を検出した患者に対してのみ SBI が行われるようになった。本研究では危険な飲酒行為に対する BAC の予測因子について検証する。</p> <p><b>方法：</b></p> <p>大人のトラウマ患者は SBI を受けた場合には対象者とした。SBI は CASI (computerized alcohol screening and intervention) システムと AUDIT (Alcohol Use Disorder Identification Test) を使うことによって運営された。人口統計、外傷、BAC に関するデータを収集した。危険な飲酒行為の独立した予測因子を特定するために多変量解析を行なった。</p> <p><b>結果：</b></p> <p>平均 43 歳 (標準偏差 20 歳) である 1,340 名の患者のデータを対象とした。男性は 68% を占め、33% で BAC を検出し、19% で危険な飲酒行為が確認できた。多変量解析により危険な飲酒行為に対する独立した予測因子として、年齢 (オッズ比 0.97/年)、男性 (オッズ比 3.1)、BAC (1mg/dL あたりオッズ比 1.009)、BAC 検出 (オッズ比 3.9)、法的に認められたアルコール中毒 (オッズ比 7.8) が挙げられた。白人と比較して、アジア太平洋の島民系の民族では有意な負の予測因子 (オッズ比 0.53) であった。危険な飲酒行為がある患者の 38% は BAC 検出ではなかった。</p> <p><b>結論：</b></p> <p>大人のトラウマ患者において若さ、男性、BAC 高値は危険な飲酒行為に対する早期予測因子であった。アジア太平洋の島民系の患者では白人と比較して危険な飲酒行為は半分程度であった。1/3 以上の危険な飲酒行為を行なう患者において BAC 検出は確認できず、センターで介入を受けていない。</p>		